

## 第1回上小地域会議議事録

平成22年7月21日13時30分～

上小森林センター会議室

出席委員 辰野登志男、加々美貴代、甲田圭吾、本田範雄、別府基規、松沢康博

欠席委員 上原栄子 佐藤文雄

開会 課長あいさつの後、委嘱状の交付

座長の選任 委員から辰野登志男 長和町産業振興課長を推す声あり

全員の賛同を得て辰野氏が座長に就任

副座長の選任 辰野座長の指名により、別府基規氏に決定

### 会議事項

(1) 平成21年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の実績及び(2) 平成22年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の概要について事務局から説明

①事業概要について 西岡補佐から

②木育事業について 中宿専門員から

③森林づくり推進支援金事業の実施について 江住主査から

森林づくり推進支援金事業の実施については、重点配分枠の配分について地域会議の意見を聞くこととされており、いずれも地域の実情や住民ニーズに対応した計画であり、具体性も認められるとして、特に計画どおりの内容で異論は出されなかった。

### 意見交換

別府委員 里山整備大変結構がだが、なかなか団地化が難しいようだ。

こうした団地化の推進するための主体はそもそもだれなのか。啓発などの先頭に立つのは市町村か県なのか。特に私どもの東御市では、こうした動きがよくわからない。

事務局(中宿) 市町村だけではできない。地域をあげてやっていただきたい。他の地域でも区長さんとかの場合もあるが、一番山を知っている森林組合さんをお願いしている。市町村と地域とが手を取り合って進めている。

別府 森林組合さんは大変よくやってくださっているのだが、市町村が積極的に動く方がいいのではないか。私たちの組合にも一度話があり事情があつてまともなかつたのだが、そのままそれきりになってしまった。市は森林組合任せになっていないか。それでは進んでいけないのではないか。こうして実績を見ていると数字は上がっているのだが、実際に市の動きが我々には見えない。もっとどんどん動いてもらえれば。

河内課長 市町村だけでも、地方事務所だけでもできない。肝心なのは地元なのだが、地元の方が主体ですが、フォローは森林組合など他の団体がやる。

座長 市町村の立場とすれば耳の痛い話ですが、それぞれの立場で協力し合って進めてゆくということではないか。

松沢委員 我々森林組合の動きも鈍いかもしれませんが、里山の団地化を進めて、整備をした後、地域の方から電話やお手紙で山を整備したことで獣の出没が減ったとかいうお礼の声も聞こえる。隣の集落からは隣がきれいになって獣がみんなこちらへ来るので、もっとこちらを整備してほしいとかの声も聞こえる。

先ほどの事務局の説明でもう 100ha 追加という話もあったが、もっと予算の枠を広げてもらえばありがたい。

河内課長 今は森林税 500 円ですので、財源的にも枠があります。期間 5 年間で、今年できなければ来年に回すとか、できれば計画的に他の地域で余った予算を分捕ってくるとか臨機に考えてゆければ

松沢 この森林税は平成 24 年度で終わってしまうのか。

河内 法律の外の課税なので 検証をしたうえで もっと進めるべきという意見が出れば平成 24 年度に検討される。

(3) 森林づくり指針の改定について 西岡補佐から説明 100 年後を思い浮かべ、当面 10 年間でどうするか。

甲田委員 このところの不況で、職の無い人、若い人が林業へという動きがあると聞くと、林業が職業として成り立ってゆく方向・明るさがあればいいなど。いろいろな分野で生活が成り立ってゆくことができれば。見通しはどうか

事務局西岡 この地域にはカラマツ資源が豊富にある。カラマツには、強度性能とか他にない特徴がある。それがまとまってあるというのは大きなメリット。建築分野でもそのことが認識されてきている。課題は多いが、明るさはある、とおもう。

先日も森林組合の現場作業班の方と山でお会いして、その中には 5 年 10 年しか経験のない I ターンの方 3 人ほどが素材生産の現場におられた。山の仕事にあこがれてせいぜい年収 300 から 400 万円ぐらいと思っていたら、実際にはその倍ぐらいの収入あげているという。

個人の努力もさることながら、路網の整備や技術研修の機会を設けるなど、地域全体として林業を支えてゆくことができれば、職業としての林業はあまり悲観したものでもないのではないか。

また、最近では森ギャルとか農ギャルとか佐久のイベントで 100 人集まったとか手弁当で応援してくれる若い人たちもいる。そんな力があつまるのだから、決して悪い状況ではない。

本田委員 アカマツの被害については今どんな状況か。一時アカマツ材が入ってきたが今入ってこなくなっている。カラマツも多くが県外の合板工場へ出てし

まって地元へ入ってこない。

事務局中宿 松くい虫の被害が県下では H20 がピーク 3 万 m<sup>3</sup>が枯れている。

ここ数年は増加が鈍化した程度で推移している。ただし、県下の 4 割の被害がこの上小地区で占めている。

ここから先の青木村にかけて木を切ってしまった山が続いているのをご覧になった方もいると思うが、アカマツから他の樹種へ樹種転換というのを行って、そこを防波堤としている。現在 250ha ほど進んでいる。

木材の利用の面からは、カラマツは合板への使用が増えている。ソ連カラマツに代わって信州カラマツにスポットが当たっているが、強度が必要な外側はカラマツでも中へ挟む板は、スギでもアカマツでもいい。松本にはアカマツメインで桁や梁をやっている業者がいる。環モデルとして松本はアカマツの利用を進めているが、なかなか企画が厳しい。上小地域も仲間に入って進めている。

松沢 (資料の) 25 ページの中ではこのすべての項目が必要かな

材を使うところ。とにかく使ってもらわないと木を切ることもできない。

どのくらい使ってもらえるかが見えてこない。合板工場は定期的にまとまった量を、持って行ってくれるが、景気が悪くなると途端にうごかなくなる。流通は平均的にうまく回れいいなどは思うが、使い道に併せてこんなふうに生産してほしいとか言っていたら、

この地域は 7 割が山なのに、どうして山が産業にならないんだろうなど。

実際に林業の現場で植えて育てて、伐って使うというすべてのことを教えて、育ててくれる人がいない。全ての事を覚えるには 3 年とか 5 年とか時間がかかるが、教えてくれる人がいない。真剣に人を育てたいと思うが、安定した仕事がないと育てられない。

それから子供たちには、火をおこすとかご飯を炊くことなど大切なことは、学校とかで基本的なことを教えてもらわないと。

別府 うちの生産森林組合では年間間伐を 2ha やっているが、間伐が必要な林は気が大きくて危険なので自分たちでできるのは切り捨てる除間伐だけ。カラマツは悪いか安いか言わないで、とにかく瀬員林組合に頼んでどんどん間伐してもらおう考えている。少しでも持ち山をきれいにできれば

座長 最終的に県産材が高く売ればいいが、県産材の PR が大切ではないか。

他にご意見ありませんか。

西岡 メールとか電話とかでも結構ですからご意見いただければ。また私どもにいつでもお声をかけていただければ

座長 その他 特になければこれで座長を下させていただきます。(15 時終了)

(この後武石上本入へ移動して、木育や里山整備の取り組み状況を視察)

平成22年度

みんなで支える森林づくり上小地域会議（第1回）次第

日 時：平成22年7月21日（水）

午前13時30分～午後16時00分

場 所：上小森林センター2階会議室及び現地

1 開 会

2 あ い さ つ

3 委嘱状交付

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 座長、座長代理の選任

4 会 議 事 項

- (1) 平成21年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の実績・・・・・・・・資料1
- (2) 平成22年度「長野県森林づくり県民税」活用事業の概要・・・・・・・・資料2
  - ① 事業概要について
  - ② 木育事業の実施について・・・・・・・・資料3
  - ③ 森林づくり推進支援金事業の実施について・・・・・・・・資料4
- (3) 森林づくり指針の改定・・・・・・・・資料5
- (4) その他

5 現 地 調 査

「税事業」を活用した地域づくり（上田市武石上本入地籍）

- ・木育推進事業、みんなで支える里山整備事業、地域で進める里山集約化事業等の活用事例

6 閉 会

## みんなで支える森林づくり上小地域会議 委員名簿

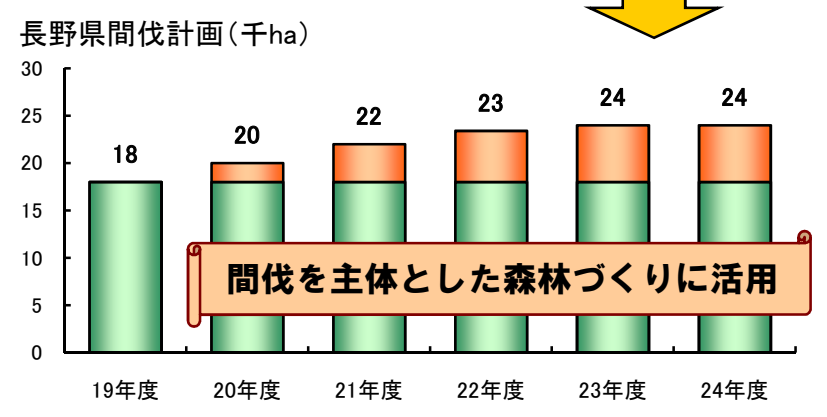
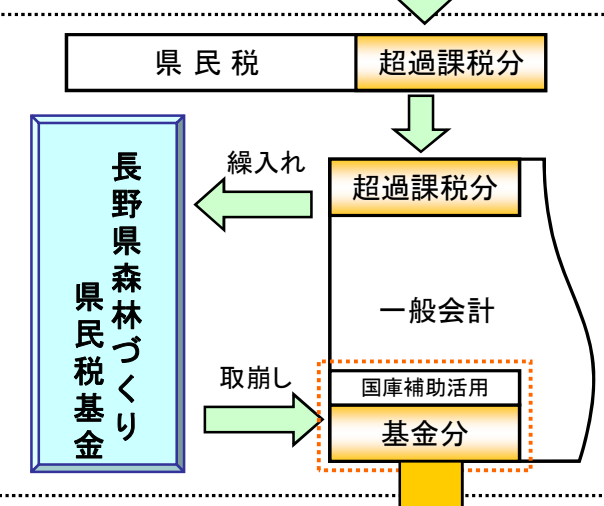
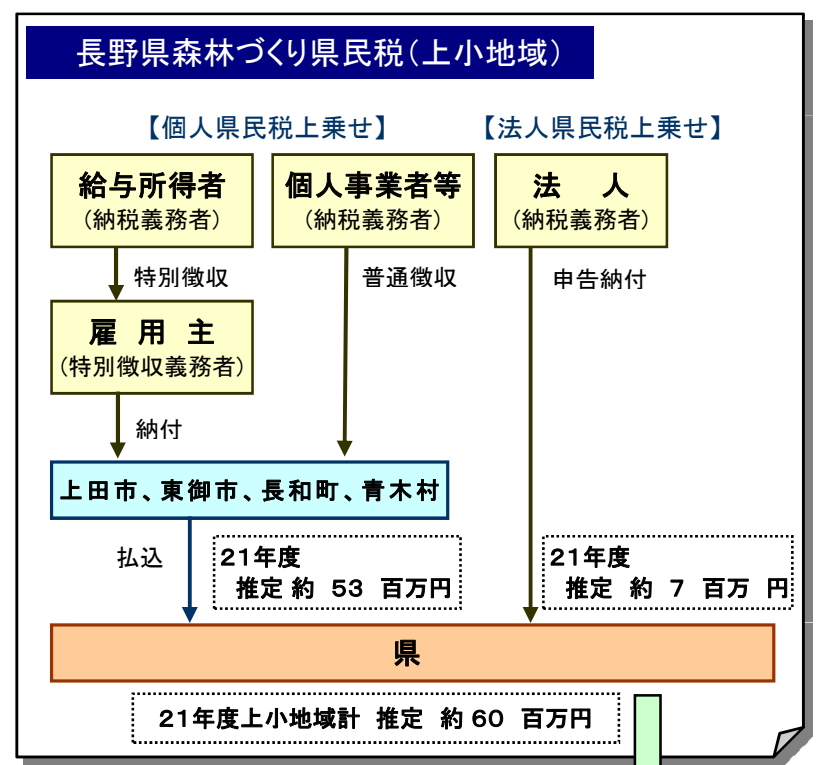
(敬称略 五十音順)

	氏 名	所 属 役 職 等	備 考
1	上原 栄子	青木村農業女性グループ	県民の代表 (消費者団体)
2	加々美 貴代	NPO法人 やまぼうし自然学校 代表理事	// (NPO法人)
3	甲田 圭吾	東信教育事務所 主幹指導主事	// (教育関係)
4	本田 範雄	上小木材青壮年団体連合会 会長	// (木材関係)
5	佐藤 文雄	上田商工会議所 事務局長	企業の代表
6	辰野 登志男	長和町役場 産業振興課長	市町村代表
7	別府 基規	上小地区生産森林組合連絡協議会長	// (森林所有者)
8	松沢 康博	信州上小森林組合 企画幹	森林・林業の代表 (森林組合)

# 平成21年度上小地域の森林づくり県民税活用事業実績

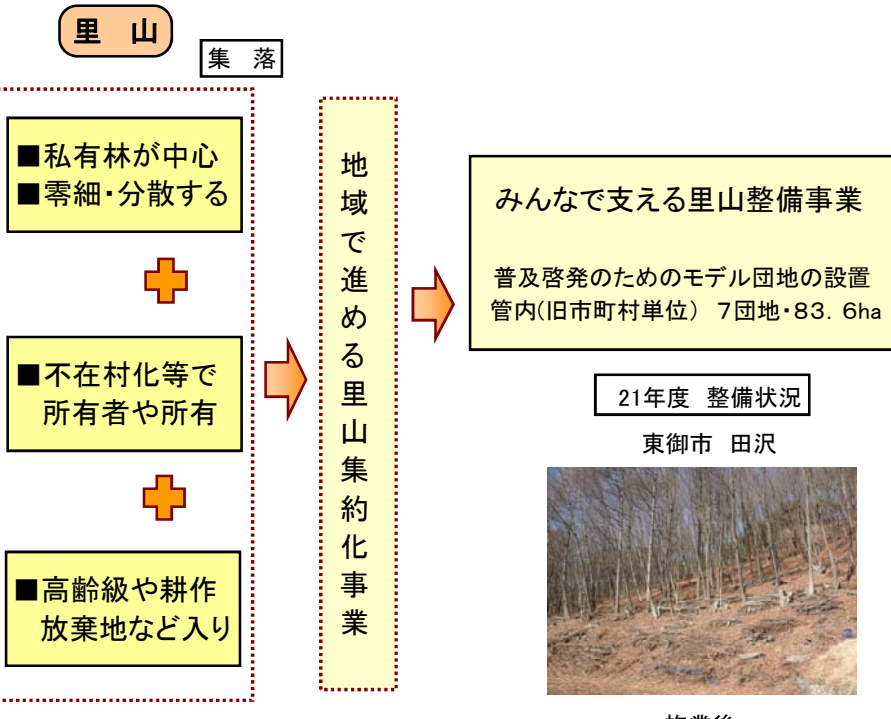
21年度 総事業費 91,866千円

**仕組み** 「緑の社会資本」である森林を県民全体で支え、健全な姿で次世代に引き継ぐための仕組み



**使途事業 1** **里山を中心とした森林づくりの推進**  
 21年度実績見込み 81,026千円

これまで助成制度があっても整備が進まず、長い間放置されている集落周辺の里山において、地域ぐるみでの取組の支援や、間伐を推進・実行する人材の育成により、集中的な間伐を推進し、災害防止や集落水源の保全等の機能回復を図ります。



- 新たな取組で間伐を推進**
- 間伐実行条件整備**  
**みんなで支える里山整備事業 78,231千円**  
 これまで整備が進めにくかった集落周辺の里山において、機能回復を図るための間伐等の森林づくりを面的に推進します。 <間伐面積 263ha>
  - 地域で進める里山集約化事業 2,595千円**  
 里山に接する集落が主体となって、森林所有者に呼びかけ、地域ぐるみで所有界の明確化や整備の導入を得る活動を支援します。 <12地区、173ha>
  - 人材育成**  
**高度間伐技術者集団育成事業 200千円**  
 林業高性能機械のオペレーターの人材育成を支援します。  
 <信州上小森林組合の55人の技能職員>

**使途事業 2** **森林づくり関連施策の推進**  
 21年度実績 9,340千円

地域性を活かした森林づくりの取組を支援します。

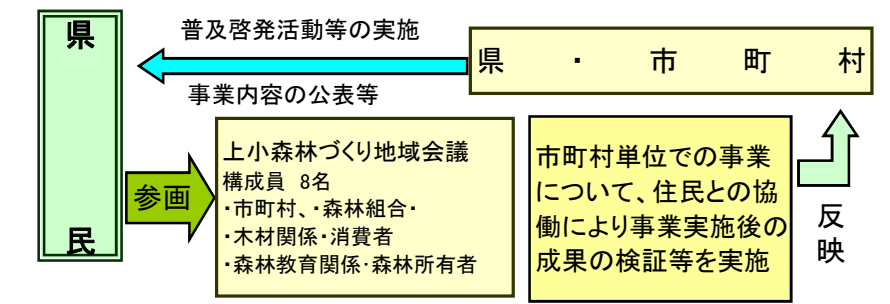
基本配分枠:50%上小地域 4,366千円  
 重点配分枠:50%上小地域 4,974千円

森林づくり推進支援金事業一覧 単位:千円

事業内容	支援金額
上田市 ・里山整備事業への嵩上げ補助 ・松くい虫被害木処理・環境教育	5,423
東御市 ・ふるさと森林づくり推進事業 ・地域の里山整備支援事業	968
長和町 ・長和町植樹祭事業 ・桜銘木環境整備	2,049
青木村 ・あずまや設置 ・木製ベンチ等導入事業	900
計	9,340

**使途事業 3** **森林づくりに対する県民理解等の促進**  
 21年度実績 1,500千円

○森林づくりや県産材利用などへの理解と協力を得るための普及啓発活動  
 ○住民参加による事業実施後の成果の検証等の実施



**普及啓発** **県民への普及啓発活動等の実施 1,200千円**  
 ○上小木材青壮年団体連合会 小学校生徒と木工体験活動 500千円  
 ○唐沢小原里山活性化協議会 福寿草群落内の木道整備 700千円

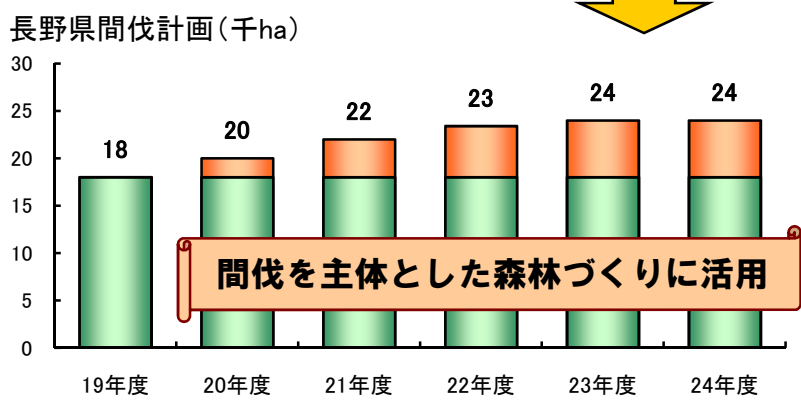
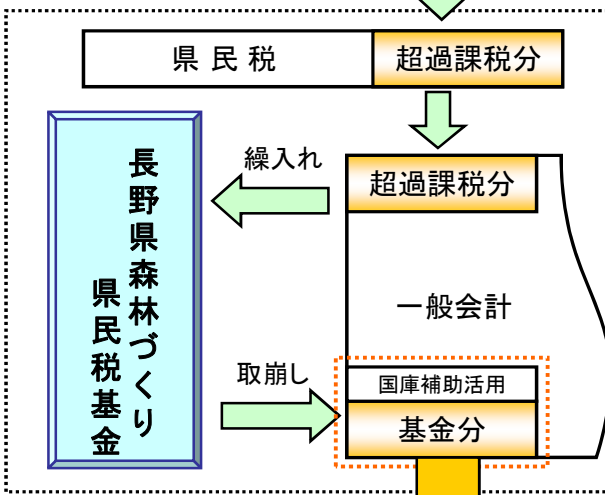
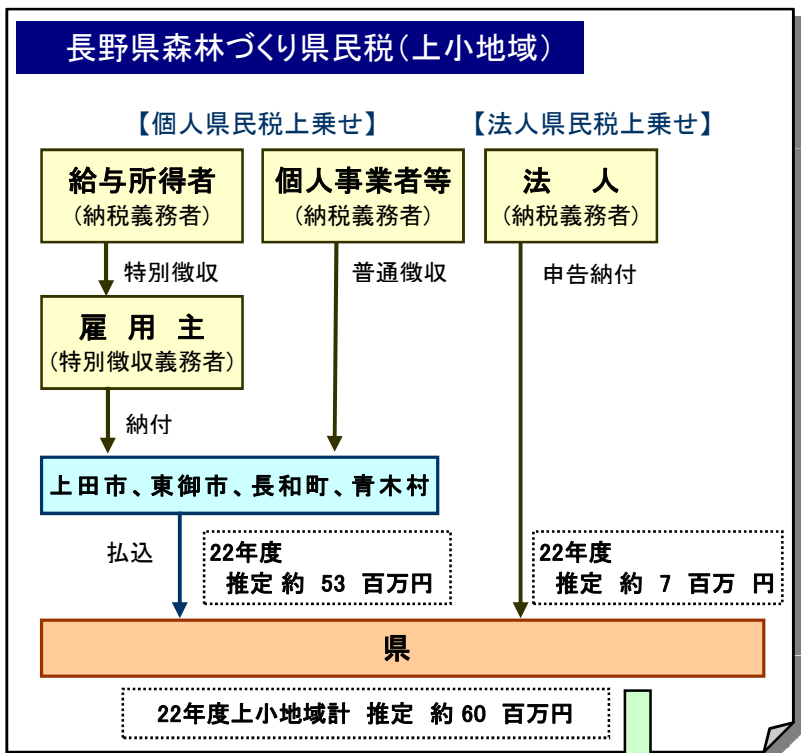
**県民参加** **森林づくり地域会議等の開催 300千円**

第1回 6月24日 平成21年度税活用事業、意見交換  
 第2回 11月14日 支援金等実施状況及び県産材住宅調査  
 第3回 3月17日 21年度実施状況・22年度計画、意見交換

# 平成22年度上小地域の森林づくり県民税活用事業 計画案

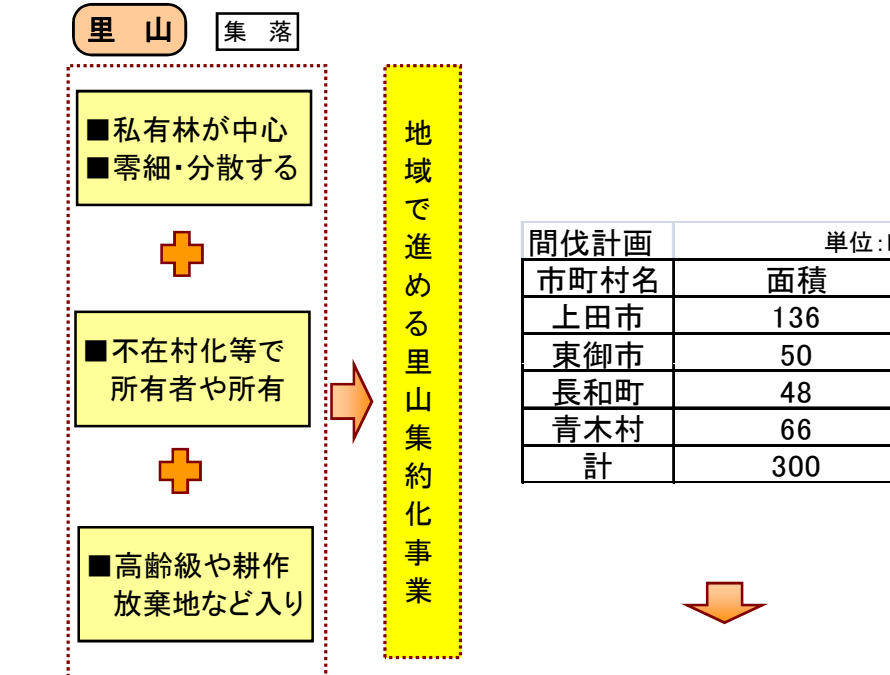
22年度計画 総事業費 97,474千円

**仕組み** 「緑の社会資本」である森林を県民全体で支え、健全な姿で次世代に引き継ぐための仕組みづくりを構築。



**使途事業 1** 里山を中心とした森林づくりの推進  
 22年度計画 84,995千円

これまで助成制度があっても整備が進まず、長い間放置されている集落周辺の里山において、地域ぐるみでの取組の支援や、間伐を推進・実行する人材の育成により、集中的な間伐を推進し、災害防止や集落水源の保全等の機能回復を図ります。



**新たな取組で間伐を推進**

- 間伐実行条件整備**  
 みんなで支える里山整備事業 80,000千円  
 これまで整備が進めにくかった集落周辺の里山において、機能回復を図るための間伐等の森林づくりを面的に推進します。 <間伐面積 300ha>
- 人材育成**  
 地域で進める里山集約化事業 4,095千円  
 里山に接する集落が主体となって、森林所有者に呼びかけ、地域ぐるみで所有界の明確化や整備の導入を得る活動を支援します。 <21団地、273ha>
- 人材育成**  
 高度間伐技術者集団育成事業 900千円  
 林業高性能機械のオペレーターの人材育成を支援します。  
 <信州上小森林組合 技能職員>

**使途事業 2** 森林づくり関連施策の推進  
 22年度計画 11,750千円

地域性を活かした森林づくりの取組を支援します。

市町村	事業内容	支援金額
上田市	・里山整備事業への嵩上げ補助 ・松くい虫被害木処理・環境教育	6,532
東御市	・地域で進める里山整備 ・県産材利用促進・啓発事業	1,166
長和町	・県産材利用促進(遊歩道整備) ・桜銘木環境整備・植樹活動	2,468
青木村	・県産材利用促進・啓発事業 ・展示用休憩施設整備	1,084
計		11,250

**木材利用** 間伐材利用の環モデル事業 500千円  
 間伐材の利用を進めるため、地域関係者が協定を締結して間伐材を利用する仕組みづくりを支援します。 <信州上小森林組合>

**使途事業 3** 森林づくりに対する県民理解等の促進  
 22年度計画 729千円

○森林づくりや県産材利用などへの理解と協力を得るための普及啓発活動  
 ○住民参加による事業実施後の成果の検証等の実施

普及啓発活動等の実施  
 事業内容の公表等

県 → 市町村 → 普及啓発活動等の実施  
 市町村 → 普及啓発活動等の実施  
 市民 → 普及啓発活動等の実施

**普及啓発** 県民への普及啓発活動等の実施 549千円  
 ○木育推進事業 1箇所 500千円  
 木楽歩 児童等と木工体験活動を行い、作品は公共の場に展示

**県民参加** 森林づくり地域会議等の開催 180千円  
 第1回 7月21日 平成22年度税活用事業、意見交換  
 第2回 2月下旬 実施状況及び23年度計画への意見交換

# 木育推進事業

ー里山等の森林や森林資源を活用した大人から子供まで参加できる学習機会の提供を支援ー

## 1 事業の内容

大人から子どもを対象に、日常生活と木の関わりや森林に関する様々な知識を身につけるための学習などの活動に対して支援。

## 2 事業の概要

### (1) 地域活動型

里山を利用して行う里山利用活動、又は、里山から生産される木材を利用して行う県産材利用活動に対して予算の範囲内で補助金を交付する。

<補助率> 10分の10以内

### (2) 里山資源活用型

長野県森林づくり県民税等により整備された里山の県産材を活用して、間伐、製材、加工組立までの一連の流れの学習を通じて行う活動に対して予算の範囲内で補助金を交付する。<補助率> 10分の10以内

### (3) 資材等譲与型

児童と地域住民が一体となって、小中学校の内装等に県産材を使用して、県産材利用に関する意識の情操を図るために必要な資材等を地方事務所長が購入して譲与する。

<譲与する資材等の範囲> 一事業主体あたり 500,000 円を上限

## 3 平成 21 年度の執行状況

事業主体名	対象活動	活動内容	補助金額
唐沢・小原里山活性化協議会	里山資源活用型	間伐から製材まで一連の流れの学習と木道づくり	70万円
上小木材青壮年団体連合会	地域活動型	里山の間伐材でベンチづくりなどの木工体験	50万円
計			120万円

## 4 平成 22 年度の実施状況

事業主体名	対象活動	活動内容	補助金額
木楽歩(コロポ)	地域活動型	地域材で木工教室等を行い公共の場所に展示する	50万円

## 5 その他（県全体の状況）

年度	対象活動	事業主体数	補助金額(千円)
H21年度	地域活動型	8	2,500
	里山資源活用型	11	3,000
	資材譲与型	5	1,994
	計	24	7,494
H22年度	地域活動型	9	2,500
	里山資源活用型	6	3,000
	資材譲与型	7	2,000
	計	22	7,500



唐沢・小原里山活性化協議会の活動

(上田市武石上本入他)